

## 実施概要

当校は、肢体不自由である児童・生徒のための小学部、中学部、高等部のある特別支援学校です。社会貢献活動はこれまで車椅子を海外へ寄付するなどの活動をしてきました。

今回は、「生活単元学習」の時間の中で社会貢献活動に取り組むことにし、その中で、高等部の生徒が自主的に考え提案した高齢者との会話を楽しむカフェを採用しました。

当校の近隣にある小平市立高齢者館（ほのぼの館）に打診したところ快諾を得ることができました。

生徒主体で行うに当たっては、話し合うこと、決めること等の枠組みを明確にして授業を行いました。

一定の枠組みを明確にすることで、自分たちで話し合い、企画をすすめることができました。

事前準備として校内でのカフェを2回実施した上で、ほのぼの館での活動に臨みました。校内の練習により会話の内容が毎回改善され、よい形で社会貢献活動を行うことができました。



私たちで、メニューを考えました

## 活動報告

実施日：11月25日（金）

今回は「生活単元学習」として位置付け限られた時間（40分）での取り組みとなりました。

対象は、ほのぼの館で様々な活動をなさっている利用者です。

今回は、カフェの企画からチラシの作成、メニュー表に至るまで生徒が考案しました。

当日、参加した生徒の人数が当初予定の6人から4人に減ったため、カフェの対応に時間を十分に割き、その後に会話によるコミュニケーションを行いました。

活動参加者 内訳 当校 生徒…4人 引率教員…3人  
交流先 利用者…30人 担当職員…2人

交通手段 当校とほのぼの館の距離はおよそ300m  
徒歩で約5分

## 当日のスケジュール

13:30 学校・施設・さわやか青少年センター・都教委4者打合せ

14:00 開会・挨拶（教員、生徒）

交流喫茶店カフェ「まったり日常」を開店。飲み物・お菓子で接客を通じた生徒と利用者のコミュニケーション

14:40 閉会・挨拶（教員） 終了

## 活動のために準備したもの

- カフェの企画の内容 ● チラシ ● 看板 ● メニュー表
- 表示「注文」「返却」 ● 店員の名札 ● BGMの選曲とCD編集

## 工夫したところ

- 生徒主体で行うに当たっては、話し合うこと、決めること等枠組みを明確にして授業を行った。一定の枠組みの中で、自分たちで話し合い、企画をすすめることができた。
- 校内でのカフェを2回行った上で、ほのぼの館へ行った。毎回改善され、よい形で交流することができた。

## 実施にあたって注意したところ

- 清潔管理…1学期に外部の飲食関係企業の出前授業を受け、手洗いの実習等を行い清潔についての意識を高めた。
- 安全管理…調理等「安全の約束」を生徒たちに考えさせ、自分たちでルールを決めた。調理実習では毎回ルールを守れたかを振り返った。
- できるだけ生徒のアイデアを実現できる方向で調整した。

## 良かったと思うところ

- 終わった瞬間に「大成功!」と生徒が言った。成功体験となった。
- ニュース発表やスピーチの学習等で培った力を発揮できた。
- 普段関われない方と交流することができ、刺激になった。
- 学校の外（地域）に出て経験を広げられた。

## 今後に向けての学校からの抱負

今後も、教科学習等で身に付けた知識や経験を実生活に生かす力を育て、地域で他者と関わりながら豊かに生活できるようにしたい。

## 活動の感想

## 生徒・教員の感想

## 生徒

- 足は疲れたが、大盛況だった。 ● 楽しかった。
- 受付のところでメニュー表をチラシ、看板のことを聞かれた。色もいいし文字も大きくて見やすかったと言われた。
- たくさんの方に握手を求められてうれしかった。
- 高齢者の方がとても元気だなと思いました。

## 教員

まず、多くのご協力を得て生徒も教員も大変やりがいのある授業を行ったことに感謝したい。はじめて会う高齢者の方に温かい言葉をかけられ、緊張していた生徒たちも笑顔で対応できた。カフェサービスを介しての交流から、最後は「世間話」に花を咲かせることができたことが、今回の学習のもっとも大きな目標であり成果だったと思う。コーヒーの香りとともに、握手や会話が広がる空間は「幸せ」「平和」そのものだった。

## 施設の参加利用者・担当者の感想

## 利用者

- 一生懸命頑張っている姿がとても良かったです。お話しも笑顔で答えてくれました。ありがとうございました。
- こういう事を定期的に行ってくると良いですね。
- すぐそばに学校があるので、私たちも楽しみになります。
- コーヒーがとても美味しく、とても良かった。

## 施設管理人

生徒さんが受付をして注文の対応をしていました。

飲食物を席に運んだ時、利用者さんと趣味などの意見交換をして和やかな雰囲気づくりができました。

ほのぼの館の日常は、カラオケ、生花、会合などで高齢者が利用しています。生徒さんは、このような場所で利用者さんと触れ合う機会が少ないと思いますので、お互いに良い場となりました。

生徒さんの言葉づかい、対応の動作は学校の指導のおかげだと感じました。

## ■ 実施までの経過 ※（コ）：コーディネーター

8月30日（コ）と当校での第1回打合せ。小平市立高齢者館には、学校側が前もって打診して快諾を得ている。

9月17日 高齢者館管理人と（コ）ヒアリングを行う。

10月20日（コ）、小平市役所と高齢者館、学校側との最終打合せを行う。会場のレイアウトおよび注文および利用者との交流の流れを話し合った。

11月24日 放課後に、会議室レイアウトの変更及び飾りつけを教員で行い、当日に至る。



開店前に受付をして楽しみに待っている



とてもコーヒーが、美味しかったわ

## 交流先

小平市立高齢者館  
ほのぼの館

住 所：東京都小平市小川西町5-39-3

## ■ 施設概要

● おおむね60歳以上の市民の方

パソコンや健康に役立つ機器、血圧計があり、舞台付きでカラオケもできる和室や囲碁・将棋を楽しめる和室、会議や研修などに利用できる多目的ホールがあります。

## 実施概要

当校は、肢体不自由のある児童・生徒が学ぶための学校として、小学部、中学部、高等部のある学校です。教育目標の1つに、様々な人々とのふれあいを通して、周囲と深く関わる力を高めることを掲げています。

そこで、都立大泉桜高校、埼玉県立新座総合技術高校との間で、生徒の訪問交流を行ったり、栄町4丁目商店街の「栄すこやか広場」で毎年「ふれあいコンサート」を企画・実施したりしてきました。

今回は、高齢者を対象とした社会貢献活動を実施するため、自立活動の授業の時間に当校に地域の高齢者（大泉学園まちづくりネット）の皆様をお招きしました。

“ボッチャ”という障害のあるなし、年齢の高低に関わらず楽しめるスポーツを通じて交流することで、生徒たちも高齢者も積極的にふれあい、相互の理解を深めることができました。



よし、真ん中行けー

## 活動報告 実施日：11月9日（水）

当校高等部の教室にて開催。今回は、大泉特支独自のルールで「ボッチャ」を行いました。地域の高齢者に対して社会貢献活動をするということで、肢体不自由のある生徒にも、まちづくりネットの高齢者の方々にも分かりやすいルールに変更して行うことにしました。

学校からの挨拶、参加者からの挨拶の後、教員がルールを説明しました。ゲームは、まず、生徒対まちづくりネットの方々との対抗戦を行い、生徒が日頃の練習の成果を発揮できるようにして、ボッチャの魅力伝えるようにしました。後半は、生徒とまちづくりネットの方々との混成チームを作り、チーム対抗戦にして、交流しながら楽しみました。その結果、まちづくりネットの方々に生徒がアドバイスする場面が見られ、終了時には双方から楽しかったという感想やまちづくりネットの方々から次回への継続を期待する発言が出るなど、成果の多い活動となりました。

活動参加者 内訳 当校 生徒…7人 担当教員…6人  
交流先 参加者…7人

交通手段 当校と大泉学園まちづくりネットの距離はおおよそ3km  
車で約5分

## 当日のスケジュール

- 9:00 学校・団体・さわやか青少年センター・都教委4者打合せ  
2階 高等部教室に移動
- 9:55 開会あいさつ  
ボッチャ及びそのゲームのルールについて説明
- 10:35 生徒・大泉学園まちづくりネットのチーム分け
- 10:45 感想 閉会の言葉 終了

## 活動のために準備したもの

- ボッチャのボール、まど、得点板、くじ
- 紙すきで作ったはがき

## 工夫したところ

- 普段授業で行っているゲームの仕方で行った。
- 2回戦目は交流できるように混成チームで競った。

## 実施にあたって注意したところ

- 生徒に無理をさせないこと。
- 生徒もまちづくりネットの方々もけがをしないこと。
- 楽しく交流できること。

## 良かったと思うところ

- 生徒がリラックスして活動できた。楽しそうな表情が多く見られた。
- まちづくりネットの方々、障害のある本校の生徒への理解を深めてくれた。

## 今後に向けての学校からの抱負

今後も、ボッチャやコンサート活動を通じて地域の方に、生徒の笑顔とパワーを届けたい。コミュニケーションをとる工夫（名刺着用）もしながら交流も深めたい。

## 活動の感想

## 生徒・保護者・教員の感想

- 生徒**
- 一緒にゲームをして、楽しかった。
  - 紙すきの授業で作った作品をプレゼントできてよかった。
- 保護者**
- 楽しそうに活動できてよかった。このような機会は大切だと思った。
- 教員**
- 状況の変化に緊張しやすかったり、他人とコミュニケーションをとることに慎重であったりする生徒もいるが、和やかな雰囲気の中で楽しく「ボッチャ」のゲームで交流することができた。生徒たちがそれぞれのタイミングと方法で投球の様子を見て、感心して応援していただいた。声援を受けて生徒たちもうれしそうだった。「ボッチャ」についての理解を深めていただけたこともよかったと思う。

## 団体の参加者・担当者の感想

- 参加者**
- 先生の対応が良く、勉強になった。とても楽しかった。
  - みなさん、それぞれ個性があって本当にいい体験をしたと思っています。
  - みなさん個性があり、それぞれの思いを先生方が大事に見守りながら指示しているのを見て、すごいと思った。
  - また、チャンスがあったら参加させてほしい。
- 代表**
- 初めてボッチャを体験するということで、私達は大泉特別支援学校の皆さんに「教えていただく」気持ちでした。ボール投げのためにはレールが特別に用意されていて、どんな障害者にも取り組めることが分かりました。その一投が生徒さんの体調によっては困難であっても、先生方はあくまでも本人の意志でボールを投げると知り、感銘を受けました。ありがとうございました。



それ、投げろよ～



今日は楽しかったね。またやりましょう

## ■実施までの経過 ※（コ）：コーディネーター

- 8月22日 当校にて、第1回打合せ。事業内容の確認。  
（コ）、副校長と①学内発表か②地域のマーケットでのコンサート、③スポーツ集会のいずれで実施するか、日程及び内容を検討。
- 9月12日 当校にて第2回打合せ。（コ）と副校長で協議。通常授業に由来してもらうことを決定する。対象の団体は、施設ではなく地域の関係先とする。
- 10月4日 （コ）、地域の大泉学園まちづくりネットの代表を訪問。趣旨説明し、協力の賛同を得る
- 10月18日 大泉特別支援学校にて第3回打合せ。（コ）、副校長、大泉学園まちづくりネット代表の3者にて実施日の内容を調整し、学校の授業への招待を決定。学校の活動内容を見学し、当日に至る。

## 交流先

大泉学園  
まちづくりネット

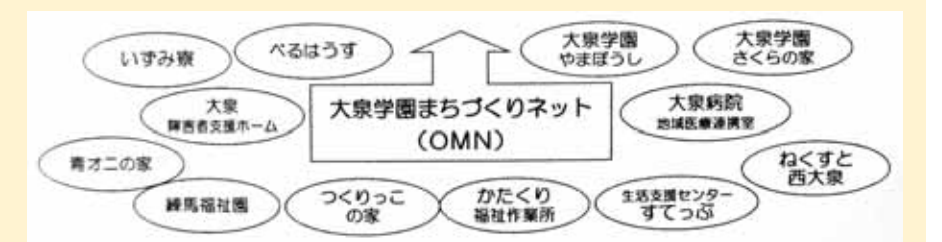
住所：東京都練馬区  
大泉学園町5-6-17  
ショップ\*学園通り

●（平成28年現在）50名

■構成団体 12団体

■主な目的 大泉学園地域を住みやすく、誰にでも優しいまちにすることを目指します。さらに、地域の環境を整え、人の和をつくり、支え合うところを培っていくことを目的とし、それに必要な各種の活動を行います。

■活動 『ショップ\*学園通り』、相談情報広場、『NPOまちの駅大泉学園』、『食のほっとサロン』、口腔ケア、健康ミニ講座など



教育課程上の位置付 特別活動(学校行事 文化的行事)

## 実施概要

当校は、主に身体に障害のある児童・生徒や病気療養中の児童・生徒を対象にした特別支援学校です。

当校は、ボッチャに力を入れており、「ボッチャ」甲子園に出場しています。

ボッチャを通じては他校との交流がありましたが、これまで社会貢献活動は特に行っていませんでした。

今回は、高齢者への社会貢献活動ということで、文化祭の全体練習に高齢者をご招待してふれあい交流をするという企画を考え、小学部・中学部の特別活動に位置付けました。

深川やすらぎの園は当校より徒歩10分程の近隣の有料老人ホームで、70名程が利用しています。施設は地域との交流は盛んですが、これまで当校との交流はありませんでした。

今回は深川やすらぎの園の利用者をお招きして、初めての社会貢献活動を行いました。



児童が舞台の上で一生懸命演じる様子を見学

## 活動報告

実施日: 11月17日(木)

利用者を学校にお招きするにあたり、小学部児童が作成した貼り絵による招待状を事前に施設へお渡ししました。

当日は“おもてなし”に配慮すると同時に動線の確保を万全にし、利用者の負担をなるべく少なくするようにしました。

利用者が到着後、玄関にて中学部生徒がお出迎えをして挨拶をした後、舞台発表の会場である2階体育館まで付き添ってご案内しました。

利用者は、30分間、文化祭の全体練習を見学されました。その後、演じた児童が利用者へプレゼントをお渡ししてふれあい交流を行いました。

活動参加者内訳 当校 児童・生徒…12人 担当教員…8人  
交流先 利用者…4人 担当職員…4人

交通手段 当校と深川やすらぎの園の距離はおおよそ700m  
バスで約5分

## 当日のスケジュール

- 9:30 学校、施設、さわやか青少年センター、都教委の4者打合せ
- 10:00 利用者が高齢者施設をマイクロバスで出発
- 10:05 本校到着後、中学部3年の生徒6人が付き添って体育館へ案内(2班に分かれてエレベーター利用)
- 10:20 利用者に舞台での全体練習を見学いただく
- 10:50 演じた小学部4年児童たちとの交流(プレゼントあり)
- 11:00 交流終了

## 活動のために準備したもの

- 招待状(小学部4年生の児童が絵の部分を作り、文字部分等を教員が貼って、ラミネート加工したものを事前に施設へお届けした)

## 工夫したところ

- 当日は文化祭の事前練習ということで、小学部4年生の劇の様子を見学していただくことを活動の中心とした。また、より多くの児童・生徒も何らかの形で対応できればと考え、中学部の生徒にも、来校時の歓迎のあいさつと舞台発表への会場の案内(誘導等)もするようにした。
- 事前に児童が用意した作品をおみやげとしてお渡するようにした。

## 実施にあたって注意したところ

- 事前の打ち合わせ段階で、来校時に使用される施設の送迎車の大きさを計測して、駐車場所を確保するようにした。
- 当日に来校されてからの動線等を実際に施設職員の方にも見ていただき、確認するようにした。
- 体育館の観覧場所に余裕をもたせておいたことで、急きょ、視力の弱い方が来校されても、すぐに座席を前方に用意することができた。

## 良かったと思うところ

- 施設の職員の方に丁寧な対応を心がけていただけたので、円滑に進めることができた。
- 来校された利用者の方が感動されていたので、児童・生徒にも貴重な機会となった。

## 今後に向けての学校からの抱負

必ずしも大きなイベント等でなく、日頃の授業の中で行えると良いと考えている。

## 活動の感想

## 児童・生徒・教員の感想

## 児童・生徒

- おおかみ役でレンガの家がたおれなくてがっかりするとところと、せんぷうきのスイッチを足で押すところをがんばりました。(小学部児童)
- 少し緊張したけど、ちゃんと案内することができた。案内する途中、どんな話をしたらいいのかわからなくてドキドキした。(中学部生徒)

## 教員

全体での事前練習はまだ不十分な発表でしたが、見ていただいた上に、児童たちに温かいお言葉をかけてくださり、ありがとうございました。小学部4年生の児童たちはほとんどが自分の祖父母と近くに住んでいて、日頃から行き来しています。自分たちのおばあさんにほめてもらえたような気持ちになった児童もいたと思います。機会がありましたら、また児童たちに会いにいらしてください。また、中学部生徒には丁寧な言葉づかいで話をする、実践的な学習の場面となりました。

## 施設の参加利用者・担当者の感想

## 利用者

- おかげ様で、楽しめました。涙が出てきました。よかったです。
- 頑張っている子供の様子が観れて幸せですね。できたら、また来てみたいです。

## 施設長代理

当施設の御入居者様から見て、墨東特別支援学校の児童・生徒の皆様方はお孫様世代にあたる為、親近感がありました。一生懸命に舞台発表を行う皆様方を拝見させて頂いて、御入居者様も心を打たれ、帰りの車内で涙を流す方もいらっしゃいました。このような交流会は継続して行っていくべきだと思います。我々も可能な限り力になりたいと思っております。また機会があれば是非、お声掛けください。

## ■実施までの経過 ※ (コ): コーディネーター

- 8月26日 当校と(コ)、学校で第1回打ち合わせ。  
(コ)、近隣の特別養護老人ホームに協力を打診するも条件合わず断念。
- 9月7日 (コ)、深川やすらぎの園を訪ね、協力を依頼。ご快諾を頂く。
- 9月13日 副校長と(コ)で深川やすらぎの園を訪問。施設と学校の状況を相互に確認し、活動内容の大枠を合意する。
- 11月1日 当校と(コ)、学校において第2回打ち合わせを行う。
- 11月4日 (コ)、深川やすらぎの園を訪問し、最終調整を行い、当日に至る。

## 交流先



株式会社燦光 介護付有料老人ホーム  
深川やすらぎの園

住 所: 東京都江東区千田21-3

## ■施設概要

- 介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) 入所定員72名



感謝の気持ちで利用者の皆様をお出迎え



握手をして、「また会いましょう」